

修了生 挨拶

本日は、ご多忙の中、私ども専門職学位修了生のために、諸先生方のご臨席を賜り、このような素晴らしい学位授与式を挙げていただきました。ここに修了生を代表し、お礼とご挨拶を申し上げます。本当にありがとうございました。只今、國部克彦研究科長より励ましのお言葉を頂きましたこと、重ねて御礼申し上げます。

加えまして、いつも仔細にわたる配慮で運営して下さいました教務係の皆様、学業と仕事の両立にあたり、様々な助けとなってくれた家族と、所属先の上司・部下の皆様をはじめ、応援して下さった全ての方々に感謝の意を表します。

2023年、観測史上最も暑かった夏がまだ、もう少しと粘っている中、私たちの夏は終わりを迎えています。私たち修了生は、この神戸大学の学府・大学院において、それぞれが、自らが究明すべき実務の課題を抱え、それと向き合い、探求して参りました。その一つの節目として、今日の日を迎えられたことを大変、感慨深く思っております。

我々の2023年度修了生と共に過ごした1年半という月日は、非常に長く、しかし、あっという間に過ぎ去りました。その短い間に同級生たちが繰り出す数々の名場面を振り返ってみました。

緊張して迎えた初回の授業は Seles and Marketing。多分全員が一番真面目だった時期である。今思い返せばタイガースの「ARE」も間違いなくマーケティングの一つの手法だった。

Technology and operations management では、「クランベリーのボトルネックはそこじゃない！」と猛然と先生に訴えたものがいた。今でも「岡藤の神回」として語り継がれている。

Individuals and Groups では、ほぼ全員が山で煙に巻かれる状況に想像力を巡らせる中、ただ一人、実際に煙に巻かれた本物のスモークジャンパーがいたことは、神戸大学 MBA 史上、最初で最後の珍事であっただろう。ブランド統括部長や常務執行役員などのベテラン同期たちの含蓄ある言葉に、人事と組織運営には経験の蓄積も必要であることを知った。

Controlling and reporting では、ABC がなんの ABC のことを言っているのかも全く分からない素人の我々に、悠然とアドバイスを与えつつ、まとめは専門家トークで先生とハイレベルな話をしていたベテラン公認会計士の同期。まるでカラオケでマイクを離さない上司のようでした。

Strategy は、それまでとは異なり、完全なる自由演技の場と化し、異種格闘技戦が繰り広げられた。レジュメ形式の本文1枚、データ4枚のパワーポイントという制限は、実務界の写真1枚などのビジュアル系スライドが主流とは真逆だった。我々は、フォント数を極限まで下げ、必要な情報をこれでもかと詰め込み、教室の最前列でも字が読めないレベルまで到達した。

授業では、まず世界の T 社が徹夜で作成したレポートで宣戦布告。それに応戦したの

が本気の業務モードで挑んできた、キャッシュリッチな半導体メーカーの R 社。飛行機ってこんな値段かな、などとあてずっぽで適当な原価計算をしてしまった回では、そんな我々をしり目に、やれ DC8 では、DC10 ではね、飛行機の新品と中古は燃費が違うので、などと本職による異次元の原価計算を披露し、全く他の追従を許さなかった P 社。

最後には、1本1万円以上する高級化粧品をセルフ棚で売るという得意分野の戦略に持ち込んできた C 社。それぞれの力を存分に発揮しきった、コア科目の集大成となった。

これ以外にもまだまだある。我々のプレゼン資料のデザイン性を間違いなく向上させた、グレーを基調としながらも読みやすく美しい色彩を織り交ぜた「HT フォーマット」や、日本の介護業界を背負って、「パワー！」と叫ぶ者。

その後自分たちが、論文という脳みその孤独な筋トレを、いやというほどさせられるとは知らずに、「なぜおぢさんは筋トレをしたくなるのか？」という問いを立てたものたち。

世界の中でも、料理の味には一定の悪評のあるイギリスで、同じ釜の飯を食ったということで、帰国の頃にはがらっと人間関係が変わった RST。

そろそろ1年が過ぎる頃に、会社で突然「無限責任とは」と言い出し、周りに怪訝(げげん)な顔をされたのは、一人だけじゃないはずだ。

MBA ならではのおめでたい名場面もあった。父親がケースプロジェクトで発表する予定の日を狙って生まれてきた子や、それでなくても忙しい MBA 在学中に、人生の一大行事である、結婚、妊娠、出産の全てを経験したスーパーウーマンもいる。先生、子どもたちを預けて学べる MBA って、間違いなくリカレント教育の新たなビジネスモデルですよ。

ケースもテーマもずっと同じチームで最後まで仲良く過ごしたまさやとグリーン。中間発表では「みなさん、幸せですか？」と問いながら、最後には、勝つためにやめることの大切さを教えてくれたもの。ゼミでは「それってお金になるんですか？」とアカデミアに対してエレガントに反撃したもの。

同級生全員と1度は酒を飲むと決めたとコロナで冷え切った飲食業界を助けようとする病院関係者や、創業者の間に挟まれることがいかに苦行かを教えてくれたものや、発表の時には必ず立ち上がる今どき礼儀正しいものなど、ここでは言い尽くせないほどの、数々の名珍場面を見ることが出来た。

同期たちよ、本当にありがとう。

皆、既に知っているだろう、経営者は、マネージャーは、非常に孤独である。人の上に立ち、指針を示し、組織を動かしていくことは、非常に孤独であるのだ。しかし、我々には仲間がいる。ここでは、弱音を吐き、愚痴を言い、議論をぶつけられる、そんな仲間がいることを忘れないでほしい。もし、孤独に苛まれた時はぜひ、仲間を頼ってほしいと思う。

我々が MBA で再認識させられたことは、「問い」の重要性、よい問いが良い解を生む、ということである。授業も然り。我々はこれまでの教育の中で、先生の話聞くという事に専念してきた。しかし、MBA は違う。実務家が揃い、先生方が投げかけてくる問いに対し

て考え、答え、更に問いを重ね、周りとの議論し、理解を深める場所である。

本当にそのデータは、解釈は、戦略は正しいのかと、常に自分に問うことは、目まぐるしく変化する環境の中で、少しでも良い打ち手や戦略へと、我々を導くはずである。六甲台というこの場所で、ここにおられる先生方が、その練習をさせてくださったのである。

MBAを修了する我々に「君たちはどう生きるか」と問う青サギは現れない。だから自分たちで問いを立てる、「私たちはどう生きるのか」。

今ここに、新たな69の問いが立てられる。それぞれに、その問いの最適解を見つけるための、長く険しい研鑽の日々が始まる。小手先の技やスキルに満足するのではなく、我々一人一人がしっかりと地に足をつけ、鍛えた体幹を軸にして活躍することこそが、この神戸大学MBAの真髄なのではなかろうかと思う。

改めて、今日までご指導頂いた先生方に、心からお礼を申し上げます。また、これまで一生懸命支えてくれた家族にも感謝いたします。

最後に、ご列席を頂きましたみなさまのますますのご健康とご活躍を心よりお祈りするとともに、神戸大学の一層の発展を祈念しまして、私の挨拶とさせていただきます。

2023年9月30日
修了生総代 樋口直子
Supported by Team なな